

漢字ゲームを始めてちょうど三か月、五歳八か月になった愛子ちゃんの現状が、詳しく書かれています。

私はこれを読んで、この三か月の進歩は実にすばらしかった、と思います。足の弱い者は、どんなにがんばっても、丈夫な者より遅れます。同じように、頭の弱い者の進歩は、健全な者の進歩に比べますと、残念ですがとてもかまいません。

けれども、がんばっていれば、だんだん強くなっていくのですから、そして人生は長いのですから、休まず努力することが大切です。まだまだいくら努力しても差が広がりますが、やがて、差をつめることが必ずできます。

さて、手紙を読んでまず感ずることは、何よりも知的関心が高まり、意欲的、積極的に行動するようになってきたことがわかり、実にすばらしい進歩だと思いました。『砂をかけた、石を投げたり』する行為の是非はさて置き、愛子ちゃんの或長の過程としてこれを眺める時、私は「しめた」と喜ばずにはいられません。なぜなら、それは愛子ちゃんに成長発展の強い原動力が備わっている証拠だからです。

知能は、頭を現実に使うことによって向上するものですが、同じ使うのでも、受動的な使い方ではタカが知れています。何よりも、本人が知的な関心を持ち、意欲的、積極的に行動することが大切です。その点、愛子ちゃんの現状は、まことに好ましい状態になってきています。

だから、『最近ペースが遅くなってきている』とお父さんは心配していますが、成長のペースというものは、速い時あり、遅い時あり、で、決して一様ではなく、速いから良い、遅いから悪い、というものではないのです。

よく“尺取り虫”にたとえられるように、伸びたり縮んだりして進む、と考えたら良いと思います。友達と比較すると、次第に差が開く時期もあれば、逆に、差を縮める時期もあるので、それ、今は差が開く時期なのですから、友達との比較をせずに、マイペースで、毎日、毎日を怠りなく努力することが肝要かと思えます。

私は、この返事を八項目に分けて書きましたが、その第七項に次のように書きました。

『夕食後、愛子ちゃんが積極的に話すようになったことは実に良い徴候です。その場合にはぜひ喜んで相槌を打ち、熱心に相手になってやって下さい。これは最も有効な治療法になるでしょう。

「どうしたの？」「どうなったの？」という質問の出始めたことも、これも実にすばらしいことです。質問には何を差し置いても答えてやるのが大切です（忙しい時でもいやな顔をせず、にこやかな表情で）。

愛子ちゃんの話す言葉が不完全であってもそれをその場で正そうとしてはいけません。そうしたら、せっかく、積極的に話し始めた愛子ちゃんが、話をしない愛子ちゃんに逆戻りしてしまいます。

どうするのが良いかと言いますと、例えば「お父たん、あっち、行った」と言ったとしましょう。その時に、「“お父たん”ではなくて“お父さん”よ。さあ、“お父さん”と言ってごらん」と言うのは最もまずい指導です。

「そう、お父さんが、あっちへ行ったの」という風に、復唱するような形で、しかも正しい言い方で受け答えをしてやることです。こうして、正しい言い方をたびたび耳に聞かせていけば、いつかは自然と正しい言い方をするようになります。

そして最後に、

『確かに悲観的な材料はまだまだ多いでしょうが、五十字の漢字が読めるということは、実にすばらしいことではありませんか。愛子ちゃんよりも一つ年上の一年生だって、二年生になるまでの一年間に、七十六字の漢字しか学習しないのです。

だから一年生だって、愛子ちゃんほど漢字の読める子は、今はまだ一人もいないはずですよ。できる限り明るい面を見て、希望をもって努力して下さい』と、力づけて文を結びました。